地域づくり表彰

竹田（たけだ）の里づくり協議会（福井県坂井市）

夢と心を育む
竹田の里づくり

竹田の里づくり協議会

会長

浅野（あさの）　輝和（てるかず）

１．坂井市の概要

坂井市は、福井県の北部に位置し、平成 18 年 3 月 20 日に旧坂井郡の三国町・丸岡町・春江町・坂井町、4 町が合併して誕生しました。

面積は 209.91 k㎡、人口は 93,126 人（平成 27 年 6 月現在）です。

市の南部を九頭竜川が、東部の森林地域を源流とする竹田川が北部を流れ、西部で合流し日本海に注ぎ込んでいます。中部には福井県随一の穀倉地帯である広大な坂井平野が広がり、西部には砂丘地および丘陵地が広がっています。

土地利用を地目別にみると、田畑が約 36 パーセント、山林が約 31 パーセントを占めており、豊かな自然環境に包まれています。

道路網は、東部に北陸自動車道・丸岡インターチェンジや国道 364 号、西部に国道305 号、中部に国道8 号、主要地方道福井金津線（嶺北縦貫線）および主要地方道福井加賀線（芦原街道）が走るなど、主要な基幹道路が南北方向を中心に発達しています。また、鉄道網も市の中央を南北に走り、ＪＲ北陸本線で 2 駅、えちぜん鉄道三国芦原線で 9 駅が設置されています。

坂井市にある国指定名勝の東尋坊

２．活動開始の背景・経緯

①竹田地区の過疎化

昭和30年代には約1,200人が暮らしていた竹田地区ですが、現在の人口は約 380 人にまで減少しています。

平成 18 年には地区内唯一の保育所が休園し、平成 26 年には 100 年以上の歴史がある竹田小学校及び丸岡中学校竹田分校が 4 年間の休校を経て廃校となりました。

さらには、主要産業であった林業が衰退し、地域の活力低下が大きな問題となっていました。

福井県坂井市　竹田地区

②「竹田の里づくり協議会」発足

こうした中、平成 19 年 11 月、地域住民による自主的なまちづくりを進めようと「竹田の里づくり協議会」が発足しました。

20 数年前に「たけくらべ広場」に植えた「しだれ桜」が見ごろを迎え、その美しさから、それを起爆剤に過疎化に歯止めをかけ、地域の魅力アップ、活性化を図ろうと、地区内全体に「しだれ桜」を更に植樹するとともに、希望する家庭に苗木の頒布を進めていきました。

しだれ桜の並木

しだれ桜の植樹の様子

③「しだれ桜まつり」での工夫

平成 20 年度からは、竹田を訪れた観光客などに一層「しだれ桜」を楽しんでもらおうと、地区住民の発案で夜間ライトアップを開始しました。

平成 21 年度からは、「竹田の里しだれ桜まつり」にあわせて、手作りにこだわった工芸品の販売や、その加工体験イベントである「クラフトフェア」を同時開催し、全国各地から多くの工芸作家が竹田を訪れるようになりました。

しだれ桜の夜間ライトアップ

竹田の里しだれ桜まつり

３．取り組みの成果

①過疎の山村に賑わいを

地域に賑わいを取り戻すために地道に植樹に取り組んできた成果として、現在「しだれ桜」は地区全体で約700本を数えるようになりました。

このうち集中的に植樹を行った「たけくらべ広場」では100本を超える「しだれ桜」が咲き誇る光景が見られるようになり、竹田地区は「しだれ桜」の名所として全国的に広く知られるようになりました。

100本以上のしだれ桜が咲く
「たけくらべ広場」

こうして60本の「しだれ桜」からはじまった竹田地区の取り組みは、近年、県外から多くの見物客が観光バスで訪れるなど、人口380人しかいない同地区に、シーズン期間中だけで、その200倍近い約75,000人の観光客を迎えるようになり大変賑わっています。

マスコットキャラクターのたけだ桜ちゃん

②その他の取り組み

地区内が多くの観光客でいっぱいになるまつり期間中においても、一切音源を使うことなく、五感で地区の魅力である「自然」を感じてほしいという思いは貫いております。

また、竹田の里づくり協議会では、「しだれ桜」の植樹と並行して「もみじ」の植樹も進めており、秋は紅葉の名所となるよう、四季を通じた地域の賑わいづくりを進めていくことも計画しています。

さらには、平成23年度から受け入れを始めた「緑のふるさと協力隊」は、今年で5人目となりました。

これらの活動に都会の若者が加わることで励みとなり、日ごろの何気ないことに新鮮さを共感でき、元気をもらって楽しく活動を続けられることに喜びを感じています。

４．課題と展望

①今後の課題

「しだれ桜まつり」のイベント期間中、当初想定していた来訪者の人数を大きく上回っており、駐車場の不足が深刻となっています。

近年は、シャトルバスを運行することにより、混雑が多少緩和されていますが、小さな集落に多くの人が一挙に訪れることへの対応の難しさを痛感しています。

また、車いすを利用される来場者の方も増加しており、舗装されていない場所での移動にご苦労される場面も見受けられます。「自然の趣」と「バリアフリー」の狭間で葛藤しているのも事実です。

②未来への展望

竹田小学校の休校は「複式学級ではなく、たくさんのお友達と一緒に学校生活を送らせたい」という若いお母さん方の強い要望を地区が受入れ、市に休校を申し出ました。

その4年後、このままでは学校が何も使われることなく老朽化していくことがいたたまれなくなり、再度、学校で子どもたちの元気な姿を見るために、断腸の思いで市に廃校を申し出ました。

現在、廃校となった旧竹田小学校を体験型宿泊施設に改修するための工事が進んでおり、来年春には完成の予定です。

また、来年度には、廃園となった地区内唯一の保育園も農家レストランへと生まれ変わる予定であり、人口減少により寂しくなった地区内に、少しずつ明るさを取り戻そうと努力しています。

このような公共工事に併せて、竹田の里づくり協議会では、市営のキャンプ場に隣接した場所を借上げ、福井工業大学の学生さんの協力を受けてプレイパークづくりに取り掛かりました。

これらの施設を有効に活用しながら、四季を通じて来訪者の方々を「おもてなし」出来るよう、竹田の里づくり協議会会員一同、なお一層努力していきたいと思います。

廃校の利活用による新たなまちづくり
（イメージ）

住民手作りのプレイパーク